淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.79　2017年9月発行

==========

〈会員の窓　45〉

巨椋池干拓地の遊水機能を活かした治水と環境保全に関する研究

会長　澤井健二

巨椋池は、かつて京都府の南部、現在の京都市伏見区・宇治市・久御山町にまたがって存在した広大な池で、宇治川、木津川、桂川をはじめ、山科川、鴨川、古川等が流入し、豊かな自然環境を育むとともに、漁業が発達し、また洛南の名勝地として人々に愛されていました。しかし、池の周辺では毎年のように水害に悩まされ、また、河川改修によって河川と切り離されてからは水質の悪化が進み、昭和８年から16年にかけて干拓事業が実施されました。

その後、昭和28年の13号台風によって、宇治川の堤防が決壊し、約１ケ月にわたって干拓前の巨椋池を上回る地域が浸水する被害が生じました。そこで、宇治川上流部に天ケ瀬ダムを建設する計画が建てられ、昭和39年に完成しています。その後、宇治川では破堤に至る水害は生じていませんが、平成25年の18号台風による大雨では、大雨特別警報が発令され、宇治川の堤防のあちこちで漏水が生じるなど、きわめて危険な状況に見舞われました。

そこで、国土交通省によって、漏水箇所の補強など、堤防の強化が進められていますが、今後、計画規模以上の降雨があった場合には、破堤の危険が危惧されます。万一、堤防が決壊した場合には、大量の水が堤内に流入し、きわめて危険な状態に陥ることは、昭和28年の宇治川の決壊や、平成27年の鬼怒川の決壊の事例などから明らかです。

このような大河川の決壊を防止するためには、堤防の強化だけではなく、強化された堤防の一部から越流させることにより、他の箇所からの越流、ひいては破堤を防止する対策をとることが考えられます。伝統的河川工法のひとつである霞堤はその一つです。しかし、そのような越流部あるいは霞堤開口部の背後では、他の地域に比べて浸水の機会が増えることから、地域間の不平等感がぬぐえず、近年の治水では、堤防の高さを揃えて、越水危険度の差を小さくしようとする傾向にあります。

本研究は、巨椋池干拓地を対象として、宇治川左岸堤防の一部を越流堤とし、農地の遊水機能を活かして、周辺地域ならびに下流域の治水と農業及び環境保全を図る手法について検討しようとするものです。まだ十分な検討ができているわけではありませんが、昭和28年災害時の破堤部を越流部とし、市街地を外水氾濫から守るために、市街化調整区域の外縁に周囲堤を築いた状態を想定して、摂南大学の瀬良先生や石田先生、卒業生の小川さん、ゼミ生らとともに、京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリーの巨椋池流域模型ビオトープを用いた氾濫実験や、コンピュータシミュレーションを進めています。

（摂南大学名誉教授、水辺に学ぶネットワーク）

イベント案内（詳細は３～４ページ参照）

淀川愛好会秋のイベント　『点野茨田イチョウまつり』への参加

日時：11月23日（木・祝）10:00～16:00

場所：茨田樋遺跡水辺公園（寝屋川市点野）

イベント報告

天若湖アートプロジェクト 2017

７月２日（日）に京都府南丹市日吉町で行われた天若湖アートプロジェクト「あかりがつなぐ記憶」において、摂南大学学生チームは灯りを浮かべる活動を行いました。灯りの組み立てで固定がうまくいかなかったり、灯りを湖上に設置する途中で大雨に見舞われることもありましたが、無事に灯すことができました。準備や設置は大変でしたが、最後に見た灯りの景色はとてもきれいで幻想的でした。そして、天候が悪かったにも関わらず、多くの方が見に来られたことがとても嬉しかったです。（U・M）

第１回寝屋川再生ワークショップ

７月 23 日（日）に寝屋川市役所の上下水道局で寝屋川再生ワークショップが行われました。今回のワークショップでは、各班に分かれて山新池を今後どのように活用していくかを話し合いました。私の班では、外来種の駆除について話し合われ、アリゲーターガーの駆除を提案する一方で、それによるウシガエルの増加を懸念する意見が出ていました。最初のうちは、私は外来魚を徹底的に駆除するべきだという考え方をしていましたが、それだけでは外来種の駆除にはつながらないということを感じ、バランスの取れた生態系の維持が重要であるということを学びました。（O・K）

淀川愛好会夏のイベント　近畿水環境交流会 in 淀川三川合流域

７月 29 日（土）・30 日（日）八幡市にて近畿水環境交流会 in 淀川三川合流域がありました。１日目午前は、石清水八幡宮を参拝し、エジソン記念碑などを見て回りました。午後からは、さくらであい館でシンポジウムを聞いて、淀川河川公園の整備・管理方法や、京の川の水運についての歴史を学びました。２日目は木津川で水質調査やレスキュー体験、水中カメラによる木津川の観察などの水面利用を多くの参加者に体験してもらいました。午後からは宇治川でＥボートレースを楽しんでもらいました。２日目の早朝は天候が不安定でしたが、無事に水面利用やＥボートレースを行えて良かったです。（M・H）

点野水辺づくりワークショップ

８月４日（金）摂南大学で、淀川河川事務所主催の点野水辺づくりワークショップが開かれました。今回のワークショップでは、プレック研究所さんが用意してくれた点野砂州の地図を元に、点野地区の水辺環境のデザインについての検討や、点野地区での活動のネットワークづくりにおける課題を、各班で話し合いました。私は、水辺に安全のために柵を設けるべきかどうかという話題が印象に残りましたが、柵があると自由に人々が水辺に触れ合えないと感じました。このワークショップを通じて、点野に自由に触れ合える環境が実現してほしいので、次回のワークショップでは自分の主張も伝えたいと思いました。（Y・M）

日野川水辺フェスティバル

８月 19 日（土）京都市伏見区にある春日野園にて開催された「日野川水辺フェスティバル」に参加しました。春日野園の園児による演技や屋台で盛り上がる中、私たちは春日野園の横を流れる日野川で、Ｅボートなどを用いた水遊びを行いました。特に小さな子どもには何度も乗ってもらい、「楽しかった！もっと乗りたかった」と言ってもらいました。この水遊びを通して、少しでも川に興味を持ってもらえたらこれ以上の喜びはありません。（M・H）

淀川まるごと体験会

８月 20 日（日）点野地区で開催された淀川まるごと体験会が開かれました。約 40 名の方が参加しました。参加してくれた子どもたちには、Ｅボート体験、ＳＵＰ・カヌー体験、地引網体験、生物観察、魚釣り、ヨシで作った笛やコースター・石ころアート、ネイチャーゲームなどの水辺の自然を利用した遊びを体験してもらいました。私は地引網を担当し、そこで子どもたちは地引網でとれたカマツカなどの魚を手で楽しそうにつかみ、その説明を興味深そうに聞いていました。子どもたちに淀川の自然環境を体験してもらうことで、関心を持ってくれたと思います。（Ｏ・Ｓ）

シニア自然大学校星組講座

８月 26 日（土）に摂南大学にてシニア自然大学校星組講座が開催されました。午前中は澤井先生による水辺環境の保全、利用についての講義と石田先生による淀川の生物環境や寝屋川の水辺整備についての講義が行われました。参加者にはより一層、河川環境について理解を深めていただけたと思います。午後には点野砂州探検とＥボート体験をしてもらいました。特にＥボート体験では、シニアの方々の年齢を感じさせないパワフルな漕ぎっぷりに、私の方が圧倒させられました。そして何よりも、楽しんでいただけたことに感無量でした。（Ｆ・Ｓ）

川勝水辺ひろば水辺のつどい

８月 27 日（日）に、ねや川水辺クラブ主催の川勝水辺ひろばのつどいが行われました。私はこのイベントに初めて参加しました。川の水は透明でとても綺麗でした。そのため川には多くの魚が泳いでいて、どんな魚がいるのか調べるのに網で捕まえるといった貴重な体験をしました。天気が良く暑すぎたせいか、お客さんはあまり来られなかったのが残念でしたが、活動を通して寝屋川市にこのような親水公園があるということをもっと多くの人に伝えていき、親しんでもらいたいと思いました。（Ｂ・Ｍ）

たいこ橋さざなみフェスト

８月 27 日（日）八幡市駅近くで行われたたいこ橋さざなみフェストに参加しました。真夏の炎天下、約 3000 個のキャンドルをエコシビル部のメンバーで配置を工夫しながら模様やキャラクターの絵などの形に仕上げました。点灯式でキャンドルを全て灯した時に見た景色はとても鮮やかで素晴らしいものでした。キャンドルを見て「綺麗だった」という地域の方々からの嬉しい声をいただいて、設置した私達も喜ばしく思い、よい経験になりました。（Ｈ・Ｍ）

今後のイベント詳細

第７回　京の川の恵みを活かすフォーラム

日時：2017 年 10 月 14 日（土）13:00～17:30、10 月 15 日（日）10:00～16:00
場所：京都大学防災研究所宇治川オープンラボラトリー新館セミナー室および中庭
主催：京の川の恵みを活かす会、川魚文化再興プロジェクト
共催：桂川流域ネットワーク、芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク
プログラム：１日目　活動報告会
　　２日目　食味体験会
参加費：未定
参加申し込み：　14 日、15 日のそれぞれについて氏名、所属団体を明記の上、下記宛にお申込みください。（先着 100 名様まで）
申し込み宛先：京の川の恵みを活かす会事務局 E-mall ikasukai.all@gmail.com

淀川愛好会秋のイベント　『点野茨田イチョウまつり』

日時：2017年11月23日（木・祝）10:00～16:00

場所：茨田樋遺跡水辺公園

主催：茨田イチョウまつり実行委員会（淀川管内河川レンジャー、ねや川水辺クラブ、摂南大学石田ゼミ・エコシビル部、地元実行委員会、「私の水辺」大発表会北河内委員会）

支援：国土交通省淀川河川事務所

参加費：無料

参加申し込み：11月22日（水）まで

〈会員の窓　46〉

現場での活動で学んだこと

藤村　聡

私は、生態環境学研究室に配属されて、点野ワンドに生息する魚類の種数や、外来魚の食性についての研究をしています。さらに、川に関するイベントを通じ、多くの河川活動団体と協力しながら、活動を頑張っています。いろいろなことにチャレンジするのが好きな私にとって、こんなにもたくさんの活動に関わることができるのは、とても嬉しい限りです。

大学の河川工学や河川環境についての講義で学んできた知識に加え、淀川愛好会にも関わらせていただいたことで、実際に現場に出て活動するという体験ができました。そのおかげで、さらに自分の知識を広げることができたことはもちろん、何よりも現場での人と人とのつながりの大切さを学ぶことができました。このことは社会に出てからもきっと自分の力になるだろうと思っています。

学生生活最後の１年間は、社会に出る前にいろいろな経験を通じて自分を伸ばせるラストチャンスだと思っています。このチャンスを無駄にしないためにも、一生懸命に、そして楽しみながら研究や活動に取り組み、悔いが残らないように大学生活を締めたいと思います。

（摂南大学　理工学部　都市環境工学科　４回生　就職先：株式会社中尾組）

お見舞い

先般の九州北部豪雨災害で被災された方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

編集後記

7月29日に久しぶりに巨椋池流域模型ビオトープを訪れました。カンガレイ、フジバカマ、いろいろな種類のハスなどに囲まれた池の周りを、お日さまの光を浴びながら、赤トンボが飛び交い、蝶々がヒラヒラ舞い、池ではオグラコウホネ、ムジナモなどが定着し、黄色の花をつけた、池面を覆いつくそうとしているアサザの葉影に、メダカ、フナやオタマジャクシ、そして名も知れぬ生きものたちがずっと昔からそこを棲家にしているがごとくのんびりと泳いでいる姿、そして摂南大学薬学部産のテンダイウヤクは土地に馴染んで葉は青々とし､葉の隙間に黒紫色の実をつけているのを眺めていると自然と気持ちが和んで来ました。

ここまで面倒を見てこられた澤井先生をはじめ関係者諸氏の弛まない努力、そして多くのボランティアの方々の惜しみない支援があってここまで来られたのだと思いました。大感謝し、ご苦労さまと申し上げたい。

編集長　相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）

淀川愛好会事務局：〒572-8508　寝屋川市池田中町17-８　摂南大学理工学部都市環境工学科　石田研究室内
TEL/FAX：072-839-9125
HP：http://www.setsunan.ac.jp/civ/yodoric
E-mail：ishida@civ.setsunan.ac.jp